

パラクライミングがパラリンピックの追加競技に決定！



写真：JPCA ジャパンシリーズ第1戦 会田 祥 選手

日本時間 6 月 26 日未明に開かれた国際パラリンピック委員会（IPC）の総会にて、現在の 22 競技（東京 2020 パラリンピック、パリ 2024 パラリンピックと同一競技）に加えて、パラクライミングを 2028 年ロサンゼルスパラリンピックの追加競技とすることが正式に決定いたしました。これを受け、一般社団法人日本パラクライミング協会 代表理事である小林 幸一郎のコメントを以下の通り発表いたします。

■日本パラクライミング協会 代表理事 小林 幸一郎のコメント

本日国際パラリンピック委員会（IPC）より正式に、2028 年ロサンゼルスパラリンピックにおいてパラクライミングが追加種目として加わるという、大変喜ばしい発表がなされました。2011 年イタリアで初めて開催されたパラクライミング世界選手権の開会式において、IPC 役員の挨拶や開催国イタリアからはパラリンピアンへの挨拶などもあり、この新たなパラ競技スポーツがパラリンピック種目へと向かっていることを実感いたしました。それから 13 年、ついにそのことが実現することが発表され、4 年後にはパラクライマー達がパラリンピックと言う新しい舞台で躍動する姿から、世界は新たな人間の可能性を目にすることとなるでしょう。日本は東アジアの強豪国として、これまでの国際大会で常に表彰台にその姿を見せ続け、その戦績を列挙するのに暇もありません。私たちは 4 年後に開催されるパラリンピックは無論、これからもパラクライミング各国際大会での結果を出し続けられる強豪国であり続けられるよう、選手・関係者と共に努力を続けてまいりたいと思います。新たなパラリンピック種目として発展が出来ますよう、皆さま方からのご声援、そして各企業の皆さま方からのご支援など、どうぞよろしくお願い申し上げます。

2024 年 6 月 26 日 一般社団法人日本パラクライミング協会代表 小林幸一郎

パラクライミングについて

パラクライミングとは障害のある人によるクライミング競技で、高さ 15 メートルほどの壁をロープで安全を確保しながら、壁に設定されたルートを登り、どの高さまで登れたかを競う競技です。出場選手の障害は「視覚障害」と「身体機能障害」があり、さらにその中で障害の程度に応じたクラス分けが行われます。

日本人選手の活躍について

日本人選手はパラクライミング強豪国として活躍してきました。2011 年から開催される世界選手権において、日本人が金メダルを獲得しつづけてきたという実績があり、視覚障害部門では 2023 年の世界選手権で日本は、金メダル 3 つを含む、合計 8 つのメダルを獲得しています。毎年開催されているワールドカップ大会についても日本人選手の活躍はすさまじいものがあり、會田祥選手については 2012 年から出場しているすべての国際大会において金メダルを獲得するなど、今後の活躍にも大きな期待が集まります。

※参考：世界選手権 2023 メダル獲得選手について

金メダル：會田 祥 (男子 B1) ・ 濱ノ上文哉 (男子 B2) ・ 高野 正 選手(男子 RP3)

銀メダル：安良岡 伸浩(男子 AU3) ・ 前岡 ミカ(女子 B3) ・ 簗和田 一洋(男子 B3)

銅メダル：江尻 弓(女子 B3) ・ 岡田 卓也(男子 RP1)

(B は視覚障害、AU は上肢機能障害、RP は関節可動域および筋力とその他の機能障害を表します)

一般社団法人日本パラクライミング協会 (JPCA) について

一般社団法人日本パラクライミング協会 (JPCA) は、「日本のパラクライマーが一番輝くアスリートで有り続けるために。」をミッションに掲げ、国内障害者クライミング競技を統括するために、2020 年に設立された機関です。現在は障害者のスポーツクライミング競技であるパラクライミングが行われていないアジア諸国に競技が普及・定着し、2028 年までにアジアが世界で最もパラクライミングが発展する地域のひとつへと育て上げることを目指して活動しております。

正式名称 : 一般社団法人日本パラクライミング協会 (Japan Para Climbing Association 略称 JPCA)

代表 : 小林 幸一郎

事務局所在地 : 180-0002 東京都武蔵野市吉祥寺東町 4 丁目 11 番 6 号 NPO 法人モンキーマジック内

【本件に関するお問い合わせ】

一般社団法人日本パラクライミング協会 広報窓口

TEL 03-6205-8448 FAX 03-6205-8447

MAIL / info@cb-ltd.co.jp

担当者 山口・近藤